

令和元年度事業報告

1. 事業概要

少子高齢化に伴う生産年齢人口の減少による介護・育児・サービス業など幅広い分野での人手不足は年々深刻になる中、定年年齢の引き上げや社会保障制度の見直しなど、現役で働く世代を増やす制度や高齢者や女性等の就業を推進する「一億総活躍社会」を目指して、年齢にかかわらず働き続けていくことが社会の維持に必要不可欠となってきました。

高齢者の多様な就業ニーズに対する就業機会の確保を図るシルバー人材センターは、「生きがい就業」から「地域の担い手、働き手」としての期待が高まる傾向にあります。

こうした中、国は社会の変化に対応して地域を支える「高齢者活用・現役世代雇用サポート事業」の活用による派遣事業を拡充するとともに、シルバー連合会が行う「高齢者活躍人材確保育成事業」を拡充しました。当センターにおける派遣事業の実績は、就業延人員が前年度比123.3%、契約金額が123.5%となるなど前年度に増して拡大し、請負委任契約との合計金額は4億6千万円を超えて当センター設立以来最高となりました。また、会員拡大に向けて取り組んだ結果、計画目標には届きませんでした。前年度末会員数を4人上回り1,262人となりました。

しかしながら、新型コロナウイルスの感染拡大防止のために公共施設が閉鎖され、3月以降に予定していた会議や講習会が中止になったほか、イベント等の中止によって駐車場案内や託児などの就業が出来なくなるなどの影響を受けました。

以下、令和元年度事業についてご報告します。

(1) 公益目的事業の推進

① 就業分野と会員の拡大・確保

ア、山口県シルバー人材センター連合会が実施する高齢者活躍人材確保育成事業での一般高齢者を対象とした講習会や就業体験事業に協力し、会員の拡大を図りました。

イ、会員による入会の勧誘のほか、会員活動推進委員会や女性委員会等で会員の拡大に向けてスーパーマーケットでチラシ等の配布を行ないました。

ウ、女性会員を増やすため、女性向けのイベント「きらめき講座とファッションショー」「女性限定セミナー」を開催し、女性会員の拡大を図りました。

エ、入会案内会では入会意欲を高めるために、求人中の仕事を紹介しました。

オ、昨年に引き続いてお客様満足度調査を実施し、結果についてはホームページに掲載しました。

カ、入会意欲を高めるために、リーフレットは刷新して最新情報の掲載に努めました。

② 普及啓発活動とボランティア活動

ア、市報「やまぐち」に入会案内会や各種講習等の募集記事を掲載依頼しました。

- イ、公益目的事業を推進するため広報紙「すこやか」を年2回発行しました。
- ウ、タウン紙に入会案内会やイベント等の事業広告等を掲載しました。
- エ、イベントや講習会との実施にあたっては、プレスリリースによってマスコミに情報提供し、メディアによる報道等に努めました。
- オ、ホームページは最新情報の掲載に努め、各種事業の情報を発信しました。
- カ、地区会による自主的な普及活動を推進しました。
- キ、11月23日の勤労感謝の日にパークロード中央ボランティア清掃活動を行ったほか、小郡地区で地元の小学校と連携した清掃活動を行いました。また、地区会や職群班においてもボランティア活動を行いました。

(2) 会員研修と技能講習会の実施

① 会員研修の実施

- ア、公益法人としてコンプライアンスを推進するため、新入会員を対象とした必修研修会を実施し、事業の内容や安全就業の心得及び就業マナーの習得を図りました。
- イ、地区会及び職群班では、適正就業ガイドライン研修や安全就業に関する研修のほか、警察による講習や保健師等による健康に関する講習を行いました。

② 技能講習会の実施

- ア、公益目的事業の推進と技能等の習得を目指して、会員と一般高齢者を対象とした講習会を実施しました。
- イ、公益目的事業を推進するため、会員だけでなく一般高齢者を含めた様々な講習会を123回実施しました。受講者は延1,491名、うち一般参加者は延629名でした。

(3) 安全・適正就業の推進

- ① 剪定班が2回、草刈班が1回安全集会を実施したほか、徳地地区で1回、一般軽作業グループ等でも安全推進集会を3回実施しました。
- ② 安全・適正就業委員等による安全パトロールを4回実施しました。
- ③ 安全・適正就業基準に沿った就業を推進し、剪定班や草刈班ではチェックシートによる安全点検を実施しました。
- ④ 適正就業ガイドラインに沿って適正就業を推進しました。
- ⑤ 会員就業規約及び就業基準要綱等に沿ったローテーション就業及び分かち合い就業に努めるとともに、「シルバーだより」等で分かち合い就業を推進しました。
- ⑥ 「安全就業便り」等で安全就業や交通安全の呼びかけ、及び健康診査の受診や健康管理の呼びかけを実施しました。

(4) 健全な財政運営とガバナンス及び関係機関との連携

① 健全な財政運営とガバナンス

ア、公益法人として義務付けられている関係書類等を山口県知事に提出するとともに、収支相償に適合した財政運営を行いました。

イ、法令及び定款に沿った運営を行い、総会や理事会の運営についてもガバナンスを徹底しました。

ウ、第4次中長期基本計画に沿った事業運営に努めました。

② 関係機関との連携

ア、行政及び議会には引き続き事業の支援を要望したほか、事務所の移転等についても要請し、阿東と阿知須の事務所はいずれも山口市の施設に移転しました。

イ、山口市との空き家等の適正な管理の推進に関する協定に基づき、空き家等の管理等の依頼に対応しました。

ウ、介護予防・日常生活支援総合事業の訪問型サービス（A－②）について、山口市との連携により受託が拡大しました。

(5) 高齢者活用・現役世代雇用サポート事業の実施

少子高齢化による労働力不足の中、サービス業等の人手不足分野や現役で働く世代を支える分野で高齢者が就業することが地域経済の維持・発展のために不可欠であることから、シルバー派遣による就業をより一層増やし事業を拡大しました。このため、派遣元責任者や衛生管理者を増員し対応しました。

派遣事業では受託件数、金額、就業実人員のすべてで前年度を上回り、就業延人員は前年度の16,823人日を超える20,742人日となりました。

(6) 入会相談、情報の提供

① 入会を希望する高齢者に対しては、毎月2会場（4・6月は3会場）で事業説明・入会手続き会において、センターの内容等を説明して入会促進に努めるとともに、地区まつりやスーパーマーケットにおいてもリーフレット等を活用してセンター事業の内容を説明し入会相談に応じました。

② メディア等への情報提供により、センターが行う事業の周知に努めるとともに、問い合わせや事務局に就業等の相談に来られた高齢者に対しては、センター等の情報を提供しました。

③ 山口市やハローワークが主催するアクティブシニア応援セミナーに資料を提供したほか、アクティブシニア合同就職面接会に出席して入会促進に努めました。